

九州南部豪雨による流木等被害状況視察

令和3年7月10日、活発な梅雨前線の影響により九州南部で記録的な大雨が降り、川内川（鹿児島県）より大量の流木が牛深漁港周辺に流入し漂流しているとの情報を受け、藤森会長を始め、江口天草漁協長、森野県漁港漁場整備課審議員が現地視察を行いました。

【現地の作業及び意見交換の内容】

到着時、既に漁港では回収船（海煌）による回収作業が開始されており、佐々木天草漁協副組合長始め組合員の方々が流木の曳航などに従事されていた。



天草漁協牛深総合支所、熊本県海水養殖漁協、養殖業者（小豆屋水産）を訪問し養殖業を始め漁業被害を伺ったところ、「流木の撤去作業は順調に進んでいるが、南風に変われれば再度の流木等の流入が懸念される。」との談と併せ「ユウカンピアによる赤潮が発生しており、十数年前に甚大な被害を受けた発生タイミングと類似していることから大変危惧している」との情報も得ることができた。



藤森会長から、「漁業者や浜の笑顔を絶やさないため、鹿児島県漁連や熊本県と情報を共有しつつ、必要に応じ国へ対策を求めていく」など、力強く発言されていた。